派遣先所属　　宮城県医療整備課 地域医療班　　氏名　西谷　智（にしや　とも）
派遣期間　　平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

１　派遣業務の内容、現況

派遣先の医療整備課地域医療班では，東日本大震災で被災した医療機関の復旧支援のほか，高度・専門医療機関や救命救急センターの整備・拡充。これらと連携する地域の医療機関の機能強化・連携体制の構築などを行っています。

私は、石巻地域の医療機関の機能強化支援の他，災害医療体制の見直しの仕事を担当しています。宮城県では平成 25 年 3 月に「大規模災害時医療救護マニュアル」を改定しました。このマニュアルを検証するために平成 25 年度に 2 つの災害対応訓練を行い、私はこの 2 つの訓練の企画，運営を担当しました。

8 月 31 日に実施した内閣府主催の広域医療搬送訓練は，南海トラフ巨大地震により愛知県、三重県、和歌山県に甚大な被害が発生したことを想定とした全国的な訓練でした。宮城県の役割は，被災地に DMAT（災害医療派遣チーム）を派遣すること。被災地から広域搬送された患者を宮城県内の病院に搬送することの 2 つです。他都道府県で災害が起きた時の宮城県の支援体制を検証しました。

８月３１日広域医療搬送訓練
仙台空港域外拠点本部

８月３１日広域医療搬送訓練
Ｃ１３０に乗り込むＤＭＡＴ隊員
【仙台空港→名古屋空港】

10 月 5 日に宮城県が主催した東北ブロック DMAT 参集訓練は，宮城県沖で震度 6 強の地震が起こったとの想定で実施しました。東北ブロック 7 県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県））の約 300 人の DMAT 隊員が宮城県内に参集。参集した DMAT 隊員を被災病院に派遣するといった内容の訓練でした。

東日本大震災発生時の災害医療活動において「失敗事例」の原因は，事前の組織化と連絡調整機能の確立なしに医療行為を開始してしまったことだったそうです。今回の訓練では，組織化と連絡調整の確立の重要性を DMAT 隊員に意識づけ、県庁、DMAT と消防及び海上保安庁、陸上自衛隊といった連携機関との間で具体的な連絡調整の手順を確認，構築することは目的としました。

１０月５日東北ブロックＤＭＡＴ参集訓練
石巻赤十字病院へリポート

3.11 の前の災害医療体制は，阪神淡路大震災の教訓に基づき外傷ニーズへの対応を前提に構築されたものでした。しかし東日本大震災における医療ニーズは津波特有の疾病構造であったため，外傷ニーズはほとんどなく，慢性疾病への対応がほとんどだったそうです。

このように災害は想定外のことが多く，どのような災害がくるかはわかりません。そのためマニュアルがそのまま、次の災害に対応できるということは少ないかもしれません。それでも訓練を通じ、マニュアルの内容を検証し、改訂を加えていくという作業を繰り返していくことが唯一の災害対策だと思います。

今回の 2 つの訓練を基に年度後半は，マニュアルを改訂していく予定です。

石巻赤十字病院の機能強化支援等
施設整備の仕事もしています。

２　復旧･復興状況や被災地での見聞・感想

８月に石巻市に出張した際に津波で打ち上げられた第 18 共徳丸の前を通りました。この船は 10 月に撤去されました。被災経験を呼び起こさせると市民の 7 割が撤去に賛成したそうです。一方で「船がなくなったら誰も来なくなってしまう。」と集客力が見込めるものを撤去しては，町が寂れてしまうのとの考えもあったようです。

自治体に直接届いた義援金の額は，震災による被災額と比例していないという地元の新聞に載っていました。報道に取り上げられやすい話題がある自治体は何度も繰り返し報道されるため義援金も多く集まり，被害が大きくても報道されないため義援金が集まらない自治体があるとのことでした。被災状況や復興状況を伝える行政の発信力の差が，義援金の総額の差に影響しているようです。

【１０月に撤去された第１８共徳丸　気仙沼市】